

## 第4章

# 目黒区環境マネジメントシステムの取組

区の環境マネジメントシステムである「目黒区地球温暖化対策推進第三次実行計画（めぐるエコ・プランⅢ）」における2020（令和2）年度の実績と、取組に対する評価について報告します。

## 2020（令和2）年度の実績結果

### 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の削減

温室効果ガス（二酸化炭素換算）総排出量は、基準年度である2013（平成25）年度の値と比較して、19.6%の削減となりました。また、エネルギー（原油換算）使用量については、基準年度と比較して、5.8%の削減となりました。



＜環境保全キャラクター ちきゅうくん＞

＜温室効果ガス排出量・エネルギー使用量＞

区分	【基準年】 2013 （平成25） 年度	2020 （令和2） 年度	対基準 年度比
温室効果ガス（二酸化炭素換算）総排出量 （t-CO <sub>2</sub> -eq）	23,627	19,003	-19.6%
エネルギー（原油換算）使用量 （kL）	11,512	10,849	-5.8%

＜区分別内訳＞

区分	温室効果ガス排出量 （t-CO <sub>2</sub> -eq）	構成割合	使用量
電気	12,343	65.0%	30,679MWh
都市ガス	6,018	31.7%	2,699 km <sup>3</sup>
水道	108	0.6%	540 km <sup>3</sup>
下水道	248	1.3%	551 km <sup>3</sup>
化石燃料	266	1.4%	46 kL <sup>*1</sup>
その他 <sup>*2</sup>	21	0.1%	

※1 化石燃料のみ使用量ではなく購入量

※2 その他はメタン及び一酸化二窒素の二酸化炭素換算量

○ 端数処理（四捨五入）を行っているため内訳と合計が一致しない場合があります。

### 環境負荷の低減に向けた取組

「ごみの排出量」と「紙の使用量」は、前年度以下に減らすことを目標としていますが、2019（令和元）年度と比較すると、ごみの排出量は減少しました。また、紙の使用量についても、用紙の購入量、外注印刷物ともに前年と横ばいでした。

＜ごみの排出量（資源回収量を含む）＞ （単位：t）

区分	2019 （令和元） 年度	2020 （令和2） 年度	対前年度比
排出量	1,214	1,016	-16.3%
内訳	燃やすごみ	867	-14.4%
	燃やさないごみ	174	-27.6%
	資源	28	-17.9%

＜紙の使用量＞（単位：万枚/A4換算）

区分	2019 （令和元） 年度	2020 （令和2） 年度	対前年度比
用紙の購入量	4,476	4,499	+0.5%
外注印刷物	4,250	4,192	-1.4%

## 2020（令和2）年度の取組結果に対する評価

区民と学識経験者からなる第三者評価委員会が、「めぐろエコ・プランⅢ」の2020（令和2）年度の取組結果について評価しました。評価結果を踏まえ、今後も環境負荷の低減に努めていきます。

### （取組全体に対する意見）

エネルギー使用量および二酸化炭素総排出量が削減に向かっており、省エネへの意識の向上や努力が見られる。会議や研修を対面方式からオンライン方式等で開催することにより、日常業務の省資源化も進められた。

コロナ禍での新しい生活様式に合わせながら、今後も削減目標に向けて省資源・省エネルギーの取組を推進していただきたい。

### 用語解説

用語	説明	頁
ヒートアイランド現象	都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象で、等温線を書くと島状に見えるためヒートアイランド（熱の島）といわれる。人工排熱（空調排熱や自動車からの排熱）の増加や、自然地（土、水面、緑地等）の減少が原因で引き起こされる。	2
環境配慮型の道路整備	保水性舗装（空隙を多くしたアスファルトの中に保水材を充填した構造で、降雨によりしみ込んだ水が蒸発する際の気化熱を利用した路面温度の上昇を抑制する舗装）や遮熱性舗装（路面に太陽光の赤外線を反射する遮熱材を塗布した、路面温度の上昇を抑制する舗装）などがある。	4 5
温室効果ガス	太陽光線によって暖められた地表面から放射される赤外線を吸収し、大気を暖め、一部の熱を再放射して地表面の温度を高める効果をもつガス。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など。	4 16
エコロジカルネットワーク	人と自然の共生を確保するため、生態的なまとまりを考慮した上で、自然地域を有機的に繋いだ生態系のネットワークのこと。ネットワークの形成により、野生生物の生息・生育空間の確保、人と自然とのふれあいの場の提供、地球温暖化防止など、多面的な機能が発揮されることが期待される。	8
光化学オキシダント	大気中で太陽光中の紫外線を受けて、光化学反応により生成する大気汚染物質群のうち、二酸化窒素を除いたもの。	10 11
窒素酸化物	燃料中や空気中の窒素が燃焼して酸化することにより生成する物質。健康影響のほか、光化学オキシダントの原因物質のひとつとなる。	10 11
BOD（生物化学的酸素要求量）	河川の水質を表す指標のひとつで、水中の微生物が有機物を酸化・分解するときに消費する酸素の量を示す。BOD値が大きいほど汚濁物質（有機物）が多く、水の汚濁が進んでいるといえる。	10
河床整正・浚渫	河床をならし、堆積した土砂を取り除くこと。	11
カーボン・オフセット	温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット（埋め合わせ）すること。	13